

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月27日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（3月26日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①主体的に学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着と向上を図り、他者と協働する力や課題解決力を身に付けさせる。 ②多様な学習機会を提供し、看護・福祉の専門教育の充実を図り、将来の職に求められる資質・能力を育む。	①基礎学力の定着と向上を図るために、ICTを効果的に利活用し、主体的に学ぶ意欲や探究的な学びを通して課題解決力を身に付けさせる授業改善に取り組む。 ②外部機関と連携した学びや体験学習や実習を行うなど多様な学習機会を提供し専門教育の充実を図り、将来の職への生徒の資質・能力を育む。	①・組織的に計画的に授業改善に取り組む。ICTを活用した主体的に学ぶ授業というテーマで研究授業を実施する。 ・相互授業見学を通してICTや生徒が主体的に学ぶ授業のスキルアップを教科会の柱に取り組む。 ②各専門科で病院や施設などの外部機関と連携し授業の目標にあった校外実習や講演会を実施する。	①・教科会を柱に計画的に授業改善に取り組めたか。 ・研究授業後の研究討議で教員間でのスキルアップが図れたか。 ・目標が達成できたか、研究授業後の生徒によるアンケートを行い検証する。 ・授業見学の実施回数見学を通しての成果等をまとめ、検証する。 ②・実施計画に基づき実施し、成果を得られたか。	①・12/19の研究授業では概ね目標を達成できた。生徒主体の授業を実践し、理科では化学と生物の教科横断型授業を実践するなどスキルアップを図れた。 ・第1回生徒による授業評価で、基礎学力の向上、ICTの効果的な活用についての質問項目を新設した。どちらも肯定的な意見が95%以上であった。 ・授業見学を行った教員数は32名。昨年同時期より1名増であった ②・予定通り実施した。振り返り、レポート等から生徒の関心・意欲を引き出していることがわかり、成果となった。	①・組織的な授業改善について、組織として全体で取り組む姿勢がさらに出てくるとよい。また、教科会を活用し、普通科・専門学科としての学びの構築に向けて取り組む体制作りが課題である。相互授業見学では、日ごろより相互に見学を行える環境づくりを行い、実施期間以外でも積極的に授業を見合える環境づくりが必要である。 ②・現在来年度の計画を関係外部機関と連携しながら今年度通りの充実した実施計画を作成している。	・生徒による授業評価では、ICTを活用した効果的な学びで肯定的な意見が95%以上あったことは評価できる。 ・組織的な授業改善の取組の相互授業見学や研究授業に取り組む、成果となっていることは評価できる。 ・ICTにとられすぎでしまうと課題解決能力に必要なアセスメント能力が低下してしまうのではないかと懸念がある。	①今年度の研究や授業生徒による授業評価では概ね良い結果を得ることができた。各教員は新カリキュラムの目的に合わせた授業の工夫をしている。組織的に学習指導要領に基づき、探究的学びやICTを活用した学びに取り組む、個別最適な学び・協働的な学びを推進することが課題である。昨年度よりも相互授業見学や研究授業等の内容の充実を図ることができ授業改善につなげることができた。 ②各専門科では、外部機関と連携した実習やガイダンスが計画的に実施できた。今後、普通科でこのリソースをいかしてどのように連携を発展させていくかが課題である。	①特色ある普通科としての教育活動の充実、看護科・福祉科の学びの充実を図るために、学習指導要領に基づき組織的な学びの柱を明確にする。教科会を柱に日々のミーティングや相互授業見学、研究授業を通して、学事情報グループを中心に組織的な授業改善に取り組む。また、職員全体で新しい工夫をしている授業などを職員に周知し授業改善につなげる。 ②看護科や福祉科で行っている病院・施設との連携を普通科の「総合的な探究の時間」等に活用するなど外部機関との連携を進める。
2	生徒指導・支援	①部活動や行事、日常的な生活指導を通して、社会規範や責任感・連帯感を培い、自主自律の姿勢を育む。 ②組織的な教育相談体制を確立し、生徒一人ひとりの状況を把握し心に寄り添い、安全安心な学校生活を確保する。	①部活動や行事など生徒主体の活動を充実させ、生徒自ら考え行動する力や協働する力を育む。 ①日常的な生活指導を通して、社会規範を身に付けさせ自主自律の姿勢を育む。 ②SC・SSWや教育相談コーディネーター、生徒支援グループを柱にチームで生徒支援できる組織的な教育相談体制を確立する。職員研修などを行い、職員のスキルの向上を図る。	①各委員会において活動の計画・実施・評価を生徒が主体的、協働的に創意工夫し取り組み、校内外に発信する。部活動では、日々の活動を活性化し、その成果を大会参加や発表会などで示せるように支援する。 ①頭髮・服装、登下校指導等では職員で統一した指導のもと計画的に実施する。 ②かながわ子どもサポートドックや教育相談等でチームで生徒支援できる組織的な取組となるよう、立案し実施する。また、生徒の自殺対策に関する職員研修を行い、生徒・保護者対応の強化を図る。	①各委員会において生徒主体で活動し、その内容を校内掲示や放送ホームページなどで発信できたか。部活動の活動状況（人数・日数・内容・大会参加など）が活性化しているか。 ①頭髮服装指導の対象生徒数が減少したか。交通安全指導を定期的に実施したか。 ②情報共有および問題を抱える生徒への必要な支援を組織的に実施できたか。生徒支援に係る研修を通して生徒・保護者対応に活かすことができたか。	①福祉委員会の文化祭での拉致被害者パネル展、放送部の昼休みのリクエスト放送、美化委員会の各行事で飾りつけなど、新たな取組を生徒主体で実施することができた。部活動は、陸上競技部の個人入賞などの活躍がみられたが、1年生の部活動加入率が例年より低かった。 ①頭髮服装指導については、指導計画に沿い、4回実施した。交通安全指導については、5月・9月に教員主体で実施した。 ②学年会や生徒情報交換会、サポートドック、ケース会議等を積極的に行い、情報共有及び生徒支援に努めた。また、5月と1月に全職員対象に自殺防止に関する研修を実施した。	①各委員会、部活動での活動を継続し、校内・校外に発信していく。 ・部活動の活性化では、加入率をあげるとともに、生徒一人ひとりの生徒が達成感を持てるように支援を継続し、次年度につなげていく。また、普通科への学科改編に伴い、部活動の在り方・運動部・文化部数の見直しなどさらに検討する。 ①引き続き計画的に実施し、頭髮服装指導や遅刻指導などの成果と課題について検討する。交通安全指導については、地域と協働した取組みになるよう検討を進める。 ②課題のある生徒支援については、引き続き組織的に実施し、関係機関との連携強化に取り組む。	・委員会や部活動などで生徒発案による新たな取組が増えたことは評価できる。 ・コミュニケーション不足は高校生だけではなく大人にとってもそうだと思う。コミュニケーション能力は大切であるので見直すことが必要だと考える。 ・60周年記念式典での看護科・福祉科の生徒の発表は、日ごろの学びがよくわかる発表であり、評価したい。	①生徒会総務や各委員会の活動については、学校生活をより良いものにしたという生徒の発案による新たな取組が増え、スポーツ大会などの行事も充実してきた。全校生徒の意識を高め活動の充実を図ることが課題である。部活動については、部員同士が学年を超えて協力し活動している部が多いが、1学年の部活動加入率が低く、学校全体の加入率も低下傾向である。学校規模に対して部活動が多く、生徒の男女比等が変化していくことから、部活動の見直しが必要である。 ・頭髮服装指導を定期的に行い、昨年度比で指導対象生徒を減少することができた。 ・ケース会議などさらに組織的な取組の推進が課題である。	①生徒の自主的な活動について支援を継続するとともに、より多くの生徒が参加できるように委員会の持ち方や活動内容を工夫する。新入生歓迎会や部活動体験等を効果的に行えるように指導し、入部率を上げる。生徒会活動や部活動に対する生徒の関心ややりがいが高めるために、校内放送やInstagram、ホームページ等での発信を行う。活動支援グループで活動状況を把握し、普通科改編後の生徒の状況を鑑み、部活動の在り方を検討する。 ・頭髮服装指導に加え、遅刻指導・通学路マナー指導もしっかりと行い、生徒の規範意識を高める。 ・教育相談COを中心に組織的な支援体制を確立する。また、職員研修を行い、スキルアップを図る。
3	進路指導・支援	①「看護の心」「福祉の心」「奉仕の心」を育み、看護・福祉等分野のよき担い手として活躍できる人材を育てる。 ②自らのキャリア発達を意識できる3年間の進路指導の充実を図り、自己の希望に即した進路実現を図る。	①将来ヒューマンサービスを担う人材として、社会人基礎力と看護・医療・福祉等の分野を担う学力の育成を図る。 ①校外実習や講演会等とおして3つの心を育み、自ら「できること」を考えさせ、互助の意識を醸成する。 ②3年間を見通したキャリア教育を	①キャリアパスポートを活用し、対人支援には人としての熱意だけでなく、知識や技術の習得に向けた学びの大切さを理解させる。 ①自発的意思によって他を思う気持ちが行動に結びつかない生徒に、自ら出向きニーズに合わせた行動が出来るよう助言し支援する。 ②キャリアガイダンス等で、学習の方法や進路選択の考え方を学ばせ、自	①専門職として「ひと」を全人格的な対象として適切に対応することの必要性を理解できたか。 ・進路状況等 ①社会環境の変化を捉え、地域や社会をよりよくするために何か貢献したいと生徒が思い、行動できたか。 ・連携や協働の達成状況 ②自己の目指す進路実現に向け努力する過程	①短期記憶による学習から少しずつ長期記憶の大切さを感じ、学習スタイルに変化が見受けられる。ペアワークなどでも相手に配慮した所作が身に付いている。模擬試験の申込日程などマチコミを通して保護者に発信しているが、受験者は減少傾向である。 ①講演会や実習は計画通りであるが、参加する態度、意欲に課題がある。本校の強み、将来に繋がる職種を選びアルバイトをし	①専門職業人として社会に貢献する力を身につけるため、普通科のすべての授業においても探究的な学習の実践が必要である。 ・模擬試験の受験者数減少は、検証が必要である。共通テスト受験者には引き続き大手予備校の模試を受験するよう働きかけていく。 ①コロナ禍の影響があると思われるが、15歳で職業選択した気持ちを大切にさせたい。社会貢献、自己成長したいという気持ちは評	・専門職業人として、自ら学び続ける力を養うために探究的な学習の実践はよいと思う。看護・福祉の分野で活躍できる人材育成としても倫理教育についても継続して学べる機会としてほしい。 ・進路実績をみて、先生方の努力と生徒の頑張りが理解できた。受験スタイルの変化についてもよく	①短期記憶による学習から少しずつ長期記憶の大切さを感じ、学習スタイルに変化が見られる。ピア・ティーチングなどでも相手に配慮した所作が身に付いている。 ・模擬試験の申込日程などマチコミを通して保護者に発信しているが、受験者は減少傾向である。 ①講演会や実習は計画通りできたが、参加する生徒の態度、意欲に課題がある。本校の強み、将来に繋がる職種を選んでアルバイトをして	①専門職業人として社会に貢献する力を身につけるため、普通科・専門科ともに各教科の授業で探究的な学習の実践をする。 ・模擬試験の受験者数が減少したが、進学先の検証をし、特に改善の必要性はないと判断した。 ①コロナ禍の影響があると思われるが、15歳で職業選択した気持ちを大切にさせる。社会貢献、自己成長したいという気持ちを行動に結びつけさせる情報提供

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価（3月27日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			実践し、自己の生き方在り方を考えさせる。上級学校進学にむけガイダンスの充実を図り生徒一人ひとりの進路実現を支援する。		分の強みを活かし目標を持ち、自己の目指す進路実現に向けて自信を持ち、計画的に行動させる。	を指導、支援することができたか。 ・各学年における進路希望調査と進路状況や各アンケート結果		わかった。自分の行きたい進路に向けて取り組んだということで、今後もこのような実績を残していってほしい。	いる生徒が増えている。ボランティア活動については、期待する成果はあまりない。 ②新たな開学状況を見据えて、ガイダンスでの招聘校を設定できた。オリエンテーションについても期待した成果を得ている。 ・卒業生による進学説明会では、進路実現のため、経験を通して得た学習方法を紹介した。また保護者の参加を解禁し、一定程度の出席を得た。今年度も臨地実習受入は、相手校の都合で実施できなかった。	を行う。 ・ボランティア活動の実態を把握するための調査の必要性について検討する。 ②卒業生による進学説明会は、種々の課題が解決できていないが、来年度も開催する。なお、来年度の普通科の生徒の進路希望を見ながらより良い形態を模索していく。 ・年内入試も含め、早めの受験対策、受験指導の情報提供を行う。 ・ソーシャルワークへの進学者をさらに増やしていきたい。
4	地域等との協働	①地域に親しまれ信頼される学校となるよう広報活動に力を入れ取り組み、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ②地域と連携した防災活動や地域のイベントへの参加等を推進し、生徒の社会参画の意識を醸成する。	①地域に親しまれ信頼される学校となるようHPやInstagram、学校案内等の充実を図り、魅力と特色を発信し地域に開かれた学校づくりを推進する。 ②生徒主体の地域と連携した活動を充実させる。 ②地域と連携した防災活動を実施し社会参画し貢献する意識を醸成する。	①文化祭の広報活動やオープンスクールなど地域に開かれた学校作りを進める。 ②地域のイベントに積極的に参加し協働的な活動の様子をInstagramやHPで紹介をする。魅力と特色ある広報活動に取り組む ③防災訓練に地域の方を招き、地域の防災活動に生徒が参加し、地域と連携・協働する防災活動を行う。	①学校の魅力と特色を発信しながら広報活動や行事を実施できたか。 ②地域と連携した活動の様子をHPやInstagramで紹介をする機会を増やすことができたか。 ③地域の方も参加する防災訓練を実施できたか。地域の防災活動に生徒がボランティアとして参加することができたか。	①初の実施となったオープンスクールでは、保護者 37 人、地域の方 90 人の来校があり、本校の特色や取組みへの理解を深めることができた。 ①生徒による行事や部活動の様子の紹介をInstagramで行うことができ、投稿数が増えている。 ①文化祭のポスター掲示・配付を拡大し 800 人を超える来校者に本校の特色を知ってもらうことができた。 ②横浜市スポーツ協会や地域の老人クラブの方々と協力し、本校を会場としたインクルーシブスポーツイベントを開催した。 ③消防署と連携した防災避難訓練が、台風接近に伴う緊急態勢でできず、校内のみの実施となったが自治会長が初めて参加し、地域との連携につながった。	①学校説明会において引き続き生徒による学校生活の紹介等を行い、魅力や特色の発信を行う。次年度は、学科改編 2 年目であるので、本校の特色を具体で紹介できることや生徒主体の説明会の実施などさらに充実した学校説明会とすることが課題である。 ①引き続き生徒の活動や日常の様子をHPやInstagramで発信していく。生徒会や部活動など生徒主体の発信にも取り組む。 ②地域の防災活動への生徒の参加など、地域との連携を進めていくことが課題である。また、学校の近隣の自治会等と防災での連携を進める。 ・地域のイベントなどへの部活動の参加を進め、生徒の活動の活性化と地域連携を推進する。	・広報イベントの実施により、地域の方々等、多くの参加があり学校の特色や取組みを知ってもらう機会とするなど地域に開かれた学校づくりに努めている。 ・外部機関との連携では日本赤十字社神奈川県支部として献血ルームやライトセンター等を含め、今後地域防災などで協力していく。	①年間で8回の広報イベントを行い、延べ517組の参加者に本校の特色や取組みへの理解を深めていただくことができた。 ①生徒による行事や部活動の様子の紹介をInstagramでタイムリーに発信することができ、好評だった。 ②オープンスクールや文化祭の広報ブースの設置、地域と連携したイベントの開催により、地域の多くの方々に本校の特色を理解していただくことができた。特に文化祭では、来校者数が昨年度よりも増え来校者の満足度も高く充実した行事となった。 ②防災活動では地域と連携した校内での訓練を企画したが、消防署の緊急態勢により校内のみでの対応となった。 ②地域の防災活動に生徒が参加する機会を設けることはできず次年度の課題である。	①新校スタートに伴い、普通科の学科改編や福祉科の新たな取組みや学校の魅力、特色等について様々な機会や媒体を通じて発信していく。 ・令和8年度の生徒募集を鑑み、学校説明会や体験授業・オープンスクールなどに引き続き取り組む。 ①Instagramについて、継続的に地域の方に親しまれる内容を発信するための工夫を図る。 ②今後も地域と連携した防災活動を企画する。特に、地域の防災活動に生徒が参加する機会を設ける。 ・外部機関と連携した取組を進める。地域のイベントへの参加や小学校との交流など、生徒主体の活動の充実を図り、地域に貢献する機会を増やしていく。
5	学校管理 学校運営	①令和7年度からの学科改編に伴い、看護・福祉・普通科3科の教育活動が充実・発展するよう全職員で取り組む。 ②情報管理を徹底し、事故・不祥事防止を徹底する。 ③働き方改革を進め風通しのよい職場づくりに取り組む。	①令和7年度からの学科改編に係る業務に全職員で取り組むとともに、保護者・地域への情報を発信し円滑に進める。 ②入学者選抜、成績処理等職員研修や声かけを行い、事故・不祥事防止を徹底する。 ③職員が働きがいをもち業務を遂行できるよう業務の精選等を行う。	①InstagramやHP、紙媒体等を用い、本校の特色を発信する。 ・学科改編や60周年事業を関係部署と連携し、組織的に円滑に進めることができたか。 ②職員研修を計画的に実施できたか。学科改編に係る工事を円滑に行えたか。 ③マニュアルの作成他業務の精選を行い業務の効率化を進められたか。	①本校の特色を適切に迅速に発信できたか。 ・学科改編や60周年事業を関係部署と連携し、組織的に円滑に進めることができたか。 ②職員研修を計画的に実施できたか。学科改編に係る工事を円滑に行えたか。 ③マニュアルの作成他業務の精選を行い業務の効率化を進められたか。	①チラシを2種類作成するなど時期に合わせた紙媒体での情報発信や、HPの頻繁な更新により常に最新の情報を発信することができた。全職員による115校の中学校訪問を実施することができた。 ・60周年記念事業を適切に実施でき、記念誌を作成し計画通り進められた。 ②施工業者の決定が遅くなったが、概ね計画通りに進めることができている。 ②定例の職員会議や朝の打合せなど状況に応じて管理職より、不祥事防止の資料を活用し説明を行った。 ③業務アシスタントを効果的に活用し、業務の効率化に努めた。	①引き続き広報活動を行い、学科改編に伴う特色等の発信を行う。学校案内やちらしなどさらに工夫をしていきたい。学科改編にあわせてHPをリニューアルし、本校の特色等のPRにつなげていく。 ②次年度自転車置き場等の工事がある。業者と、協議の場をもち円滑に進める。 ②不祥事防止への意識を高めるため、職員研修等に取り組む。 ③働き方改革を進め、職員が働きがいもち業務を遂行できるよう取り組む。業務の精選ではスクラップが進まないことが課題である。業務アシスタントの効果的な活用を行う。	・60周年記念事業を盛大に開催できたことはよい。 ・新校がスタートし今後も学科改編に伴い新しい魅力の発信に期待する。 ・先生方のメンタル面を含めた体調管理に留意し、働き方改革に積極的に取り組んでほしい。 ・スクラップが課題であるということでは、時代の流れをしっかりと把握し変化を認識し次のステップをどう進めていくかが大切である。	①全職員による115校の中学校訪問や校内外での広報活動、HPの更新により、学科改編に伴う特色等の最新の情報を時期に合わせて適切に発信することができた。 ・60周年記念事業を実行委員会を中心に職員の協力のもと「生徒の記憶に残る事業」を概ね実施できた。 ②施工業者の決定が遅くなり工事が年度末ぎりぎりになり、職員の負担増につながってしまった。 ③不祥事防止について職員会議等で周知し、職員の意識の向上につながった。 ・業務アシスタントにより業務の効率化できたが、働き方改革を鑑み更に活用を進めることが課題である。	①学科改編に伴う本校の特色や新たな特色等の発信を引き続き行う。 ②次年度は生徒の自転車置き場等の工事が予定されているので、事務室と連携し、安全に配慮して工事を実施する。 ・不祥事防止では、職員会議や朝の打合せなどを活用しタイムリーに教職員への周知・研修等を行う。 ③学科改編初年度では、様々な課題の解決に向け全職員で取り組むとともに、職員の負担を鑑み、業務の精選・効率化を図る。 ・業務アシスタントやICT・業務サポーター等と連携し、教職員の働き方改革を推進する。